

解 答 速 報

関西医科大学（後期） 英語

2022年3月5日実施

I	1	①	X	②	O	③	X			
		④	O	⑤	X	⑥	X	⑦	X	
	2	had		3	infectious disease specialists					
	4	ひどく困惑している／とても訝しく思っている								
	5	way	6	so it remains to be seen whether						
	7	but								

II	1	筆者がリモートワークを始める以前に行っていた仕事と、オフィス内で働くことにまつわるストレス要因の全て。								
	2	asleep	3	are	4	a	b	Ⓒ	d	e
	5	more	6	my love of working from home						
	7	needing	8	had been	9	chronic				
	10	no one cares how I looked or what								

III	1	①	X	②	O	③	O	④	X	⑤	O
	2	the dream the author had nearly forty years ago									
	3	a	Ⓑ	c	Ⓓ	e					
	4	The frontal lobes									
	5	夢の内容と現実に行っていることの区別がつかなくなること。									
	6	lying still without opening your eyes									

〈〈 模試・講座のご案内 〉〉

医学部進学予備校 **メビオ** では **春期講習** を実施します

医学部受験相談会も好評実施中 ※いずれも詳細は最終面をご確認ください

<解説>

I

1[内容一致・不一致] 「本文に従い、以下の文が正しければ“O”を、間違っていれば“X”の文字をそれぞれ自分の解答用紙に記入せよ」

- ① **X** 「アメリカ疾病予防センターの公衆衛生の専門家は、レーダー技術を用いてインフルエンザの大流行を確認し監視している」
本選択肢中の「レーダー」に関する直接の言及は第3段落第2文である。「公衆衛生の監視網にインフルエンザの発生がほとんど現れることなく、地図は穏やかな緑のままである」とある。さらに第1文には、「アメリカ疾病予防センターによって発行されたインフルエンザの活性の全国地図は非常に多くの活性事例を示しており、『非常に高い』活性のため赤から濃い紫になった州もある」と書かれている。本文を読む限りでは、公衆衛生の監視網で確認されたインフルエンザ発症数が地図上で色分けされて表示されるような仕様になっているだけで、「レーダー技術（電波探信儀）」で対象物を捕捉するようにインフルエンザの流行を特定しているわけではないと考えられる。よってこの文内容は誤りである。
- ② **O** 「執筆の時点で、研究所によってアメリカ疾病予防センターに今季報告されたインフルエンザ・ウイルスに感染したサンプル数は、昨季の同時期に報告されたサンプル数の1%未満である」
第4段落第1文に「これまでのところ、今季はアメリカ疾病予防センターに報告している研究所は、種類は問わず、インフルエンザのたった1,585件のサンプル検査陽性の事例があった」とある。そして第2文から、去年の同時期には「183,000件以上の陽性サンプルがあった」ことがわかる。 $183,000 \times 0.01 = 1,830 > 1,585$ であり、この文内容は正しい。
- ③ **X** 「自身の宗教の諸規則が理由で、ボゴシはクリスマス休暇の間は無給で勤務し、それにより彼の同僚の何人かはいくらか休みをとれるのである」
第9段落に「ボゴシはユダヤ人であるため、毎年クリスマスは自分の勤務する病院で進んで働くことを申し出て、同僚には休ませる」とある。本文の volunteer は「自発的に志願する」という意味であり、本選択肢にあるように「無給で勤務する」という意味ではないことを考えると、この文内容は誤りである。
- ④ **O** 「ボゴシが語ったところによると、自分の勤務する病院でクリスマス休暇中にインフルエンザが理由で入院する必要がある患者が一人としていなかった」
第10段落に「今年はトロント総合病院にクリスマス中にインフルエンザの一人も入院させなかった」とある。ここから、この文内容は正しい。
- ⑤ **X** 「毎年、合衆国が南半球でのインフルエンザの動向を注視しているのは、それらの国々から船に乗った旅行者によって合衆国にインフルエンザ・ウイルスが持ち込まれる傾向があるからである」
第11段落第2文に、「合衆国は、自分たちの沿岸に何がやってくる可能性があるかが垣間見えるようにするために、オーストラリアのような国に目を向けるのがふつうである」とある。ここから、本選択肢の because 以下すなわち「それらの国々から船に乗った旅行者によって合衆国にインフルエンザ・ウイルスが持ち込まれる傾向があるから」の部分の内容が不適切である。よってこの文内容は誤りである。
- ⑥ **X** 「今年、以前よりも多くの人々がインフルエンザのワクチンを打つほうが良いという公衆衛生の専門家の忠告に従うことをためらっていたようである」
第14段落に「多くの人々が、インフルエンザのワクチンを打つほうが良いという公衆衛生上の忠告を心に留めておいたようだ」とある。ここから、この文内容は誤りである。
- ⑦ **X** 「シャフナーによれば、今年インフルエンザの発症率が低い主な理由の一つは、子どもは大人よりも長い期間ウイルスを払いのける(shake off)傾向にあり、感染者になりにくいという事実である」
第21段落第1文に、「子どもは大人よりも長い期間インフルエンザ・ウイルスをばらまく(shed)」とあり、かつては子どもがウイルスの大きな感染源であったことが読み取れる。しかしCOVIDが蔓延する現在では、第26段落にあるように、家の中にとどめ置かれており、このことがインフルエンザの発生率の低下に寄与していると推測できる。またそれは最終段落第1文及び第2文からも確かめられる。そのおおよその意味は、「彼らは集まって遊んでさえいません。というのも、母親が彼らを遊び場に行かせませんし、遊ぶ約束もさせないのです。なので、実際、そのことはインフルエンザがほとんどなくなっている主な理由なのだと思います」である。以上より、この文内容は誤りである。

2[活用変化] 「空所(1)の動詞を適切な活用形にして記せ」

空所(1)の直前は“who’s ~”とあり、この短縮形が“who is”なのか“who has”なのか考える必要がある。仮に現在進行形とすると、今現在インフルエンザに罹っているということになるが、そうだとすると“this year”という副詞と矛盾する。よって省略されているのは has であると判断できるので、活用形は過去分詞 had となる。その1文のおよその意味は「今年、インフルエンザにかかった人を知っていますか？」である。

3[指示内容] 「下線部(2)の語句は何を指すか。本文より最も適切な語句を抜き出して書け」

下線部(2)の“us”は人を表す複数の名詞であるが、下線部を含む文の直前となる第4段落第2文を見ると、“Those numbers are making infectious disease specialists do double takes.”とあり、“infectious disease specialists”がその名詞に該当することがわかる。なお、下線部(2)を含む文の発言者は、“an infectious disease specialist”であるウィリアム・シャフナーである。

4[語句説明] 「下線部(3)の語句で意図されている意味は何か。シャフナーがこれらの語句で言おうとしていることを短い日本語で説明せよ」

<have gray hair> は [http // idioms. thefreedictionary.com](http://idioms.thefreedictionary.com) によると、“to experience negative or undesired physical effects (such as having gray hair) from being exceedingly worried, stressed, or upset by or about something or someone.”「物や人によって極度に心配し、ストレスを抱え、気が動転することから、(白髪になるような)負の、もしくは望まない身体的影響を経験すること」とされている。

もちろんそうした知識をもともと持っていた受験生はほとんどいないと思われるので、「白髪になる」という文字通りの意味から得られるイメージと、前後の文内容から推測することになる。第4段落第2文に“Those numbers are making infectious disease specialists do double takes.”「その数を見て感染症の専門家たちは二度見した」とあり、インフルエンザ感染者数の激減ぶりに、一部の感染症専門家たちは「信じられない」という「動揺・疑念」を抱いたのだらうと予想できる。

5[空所補充] 「空所(4), (6)に同じ英単語を入れよ」

空所(4)を含む第7段落第1文

(1): Flu numbers are (4) down in Canada, too.

<way down> 「はるかに減って」

空所(6)を含む第22段落第1文

(2): “As we’ve learned the hard (6), with COVID, shedding virus before you are symptomatic makes it really, really hard to contain an infection,” she says.

<the hard way> 「つらい経験をして、苦勞して」

6[文中語句整序] 「角カッコ[5]内の語および語句を適切な順に並べ替えよ。語句のそれぞれを正しい順序で解答欄に書け」

[5]: (Distribution isn’t the same as the number of shots going into arms,) so it remains to be seen whether (high vaccination coverage may have played an important role in tamping down the flu here.)

接続詞の“so”のあとに <S remain to be seen> 「Sはいまだ不明である」というフレーズが構成できる。このフレーズの主語として“it”が考えられるが、これが形式主語であると見抜ければ、“whether”を最後に置くことにより真主語となる名詞節が完成する。

7[空所補充] 「空所(7)を埋めるに最も適切な英単語を書け」

(7) “And so, in fact, I think that’s the major reason the flu is all but gone, ~”

「なので、実際、そのことはインフルエンザがほとんどなくなっている主な理由なのだと思います」

<all but ~> 「ほとんど～」

II

1[内容説明] 「2年前まで筆者がよく眠れなかった主な理由は何か。文章中の表現を用いて日本語で簡潔に説明せよ」

第1段落第4文に、“~, it became clear what had been thwarting my restful night: my prior job and all the stressors that accompanied working in an office environment.”とあり、筆者の平穏な夜を妨害してきたものがコロナ以下に具体的に述べられている。コロナ以下「筆者がリモートワークを始める以前に行っていた仕事と、オフィス内で働くことにまつわるストレス要因の全て」が解答に対応する。

2[空所補充] 「下線(1)が引かれた単語の意味の説明になるように、次の文中の空所を埋めよ」

解答は asleep。文中の下線部(1) insomnia は「不眠症」という意味である。これは第1段落の内容および、前問の問題文より推論可能である。

3[活用変化] 「空所(2)の動詞を適切な活用形にして記せ」

解答は are。空所は that 節内に含まれるが、その主語は my days で、その後続く of 以降空所の直前までが形容詞要素として、my days を修飾している。空所を含む文の骨格は I'm ecstatic that my days (of ~) are over. であり、空所を含む文のおよその意味は「6時に起き、ぼうっとしながらシャワーを浴び、熱すぎるコーヒーとパックに入った冷たいマフィンをひつつかみ（いえ、温めていただく時間はないので、とバリスタに頼んでいたものだった）、列車へと急ぐ日々は終わり、狂喜している」である。

4[選択] 「下線部(3)に最も適する和訳を以下の選択肢から選び、解答欄の対応する文字('a' から 'e')をマルで囲むことで解答せよ」

解答は c。meet は「~をうまく処理する」という意味。また、on one's[own] terms は「自分の思いのままに」という意味。下線部を含む文のおよその意味は「私は自分の都合がいい時間に起き、午前中と昼食時には子供と過ごし(私たちは子どもの小守の役目をする乳母を雇っている)、自分の思うがままにその日その日に対処するのが好きなのだ」である。

5[空所補充] 「空所(4),(5),(6)および(7)を同じ英単語で埋めよ」

解答は “more”。(4),(5)および(6)を含む文は、<The 比較級~, the 比較級...>の構文。そのおよその意味は「コロナウイルス感染症が理由で在宅ワークについて人と話すことが多くなるにつれて、リモートワークをすることがより広く求められるに違いないということを、ますます確信するようになっている」である。また、(7)を含む文のおよその意味は「より多くの方が在宅ワークの恩恵にあずかることをうれしく思う。そしてこの感染症が終息しても、企業がこの価値ある選択肢を従業員に提供し続けることをのぞんでいる」である。

6[指示内容] 「下線部(8)の代名詞が指す内容は何か。最も適切な語句を同段落から見つけ出せ」

同段落の第1文に注目する。そのおよその意味は、「在宅ワークを私が好む理由には、私の特定の健康上の必要性和個人的な好みも部分的に含まれる」である。次に、同段落第2,3文の内容に注目する。そのおよその意味は「その多くは職場生活に広がる非人間的な性質と関係している。比較的緩い企業の環境であっても、恣意的にも感じる規則が依然としてしばしば存在する」である。以上を踏まえると、ここでは「筆者が在宅ワークを好む理由」について書かれており、「健康上および嗜好上の理由もあるが、それ以上に労働環境上の理由によるところが大きい」という趣旨の文脈であることがわかる。したがって、it の内容は “my love of working from home” 「在宅ワークを私が好むこと」である。

7[活用変化] 「空所(9)の動詞を適切な活用形にして記せ」

(9) “Talking exhausts me, and I often find myself (9) to retreat after extensive interaction with others.”

「会話をすると私はひどく疲れ、他人と広範囲にわたって交流した後にふと気が付くと引きこもりたくなっていることがよくある」

解答は needing。空所直前に “find myself” とあることから、<find OC> 「OがCだとわかる」という形

であると判断できる。myself の補語に相当する形として、能動を表す needing または 受動を表す needed が候補に上がるが、空所直前の“Talking exhausts me” および空所直後の“to retreat after extensive interaction with others”を踏まえると、ここでは「(他人と話した後に)自分自身が引きこもりたくなる」という能動を表す形が適切であると判断できる。

8[活用変化] 「空所(10)の動詞を適切な活用形にして記せ」

(10) “If companies and employers (10) listening to disability advocates, they would have already known.”

「もし企業および雇用主が障害者支援者の声に耳を傾けていたら、彼らは既にわかっていただろう」

解答は“had been”。空所の直後の主文の動詞が“would have ~ known”であることから、仮定法過去完了を用いた文であることが予想できる。したがって、空所に“had been”を補うことで、“had been listening to ~”「~の声に耳を傾けていたら」という意味が成立し、主文の時制との整合性も問題なく保たれる。

9[対義語] 「“acute”と反対の意味をもつ語を本文中から見つけ出せ」

acute は「深刻な、ひどい、鋭い、(病気が)急性の」という意味をもつが、本文中で見つけられる単語で、かつ acute の対義語に相当するものとして、第9段落第4文の chronic 「(病気が)慢性の」が正解。acute のその他の意味については、いずれも対義語に相当する語は本文中には見当たらない。

10 [文中語句整序] 「角カッコ[11]内の語および語句を適切な順に並べ替えよ。語句のそれぞれを正しい順序で解答欄に書け」

[11]: (If I meet my deadlines,) no one cares how I looked or what (I did while getting there.)

まず、主文の述語動詞を考える。直前の“If I meet ~”から、主文は現在時制で書かれることが予想できるため、cares が述語動詞と決まる。また、それに伴い、3人称単数現在形である cares の主語は“no one”であると判断できる。最後に cares の目的語にあたるもの考えると、語群から how 節と what 節が or によって並列された形を想像することができる。直後の“I did while ~”が目的語を欠いた不完全文であることから、“what I did while getting there”「そこに至る間に私が行ったこと」という形が決まる。したがって、残った語句を用いて“how I looked”「私がどのように見えていたか」という名詞節が完成する。

III

1[内容一致・不一致] 「本文に従い、以下の文が正しければ“O”を、間違っていれば“X”の文字をそれぞれ自分の解答用紙に記入せよ」

- ① X 「睡眠時、私たちの脳は状態が安定しており、意味のある心的活動は行われていない」
第5段落第2文に、「睡眠中の私たちの脳は、無意識の安定状態が睡眠の途中に挟み込まれていると言うよりも、心の状態がジェットコースターのように激しく変化しており、脳のある部分は全力で心的活動を行っている」とある。この内容から考えて、睡眠中の脳は状態が安定しておらず、活発に活動していると判断でき、この文内容は誤りである。
- ② O 「目覚まし時計で起きると、夢の内容を忘れていた可能性が高い」
第16段落第1文に、「『夢を思い出すことができない理由を聞いてくる人には、あまりに早く眠りに落ち、あまりにもぐっすりと眠っており、目覚まし時計で起きているからだ』とハーバード医学校で睡眠を研究しているロバート・スティックゴールドは述べている」とある。ここから考えて、この文内容は正しい。
- ③ O 「私たちの多くがよく思い出すのは、徐々に睡眠状態に入っていく睡眠の最初の段階に見る夢である」
第17段落第1文に「スティックゴールドによれば、多くの人が、睡眠開始時に見る夢を覚えている～」とあり、この文内容は正しい。
- ④ X 「夢を鮮明に思い出すために、土曜日や日曜日に起きてすぐベッドから出て、普段の日課を始めるべきである」
第20段落第2文と第3文が該当箇所になる。まず第2文には「ベッドから跳ね起きて1日を始めるような人なら、夢は覚えていない。」とあり、本選択肢にあるような「起きてすぐベッドから出て、普段の日課を始める」行動は、むしろ夢を思い出せなくなるということが読み取れる。だからこそ第3文で述べられて

いるように、ゆっくり過ごせる土日の朝の方が「夢を思い出すのにうってつけ」となる。以上より、この文内容は誤りである。

- ⑤ ○「寝るとき夢を覚えておこうと何度も思えば、起きたとき本当に夢をうまく思い出せるようになる」第23段落第1文が該当箇所になる。そのおおよその意味は、「そして他にも次のようなアドバイスが睡眠の研究者から提供されている。それは、うつらうつらしているときに、夢を覚えておこうと繰り返し自分に言い聞かせるだけで、起きてそれを思い出すことができるというものだ」であり、この文内容は正しい。

2[説明] 「最初の2つの段落が説明している内容は何か？10語以内の英語で簡潔に説明せよ」

冒頭2段落は、筆者が40年ほど前に見た夢の内容であることが、第3段落第1文“I had that dream nearly 40 years ago.”からわかる。この1文を利用して10語以内の英語としてまとめるとよい。設問は“What do the first two paragraphs describe?”とあるので、“the dream the writer had nearly forty years ago”といった名詞の形で答えるのがよいだろう。

3[選択] 「REM睡眠の特徴は何か。以下の設問から適切なものを二つ選び、解答欄の対応する文字('a' から'e')をマルで囲むことで解答せよ」

REM睡眠の特徴については、第6段落で示されている。b. と d. の根拠となるのはいずれも第3文である。その1文のおおよその意味は「レム睡眠時には、眼球が急速に動き、呼吸や血液循環に変化が起こり、身体はアトニアと呼ばれる麻痺状態になる」である。

4[文選択] 「本文によれば、夢の中で起こる不合理な出来事に疑問を抱かないのはなぜか。本文中に適切な答えを見つけ、解答欄にその1文の最初の3語を記入せよ」

第8段落第1文にある“we often blindly accept what is happening in this often nonsensical narrative”という語句（ここでは下線を付してある）が、設問で問われている“not question”及び“irrational”という語句に対応することに気づくことができれば、その理由を説明しているのは第8段落以前であると予想できるだろう。そこで第7段落を確認してみると、最終文に“direct our critical faculties”という表現が見つかるので、そこを手掛かりにして解答する。その1文のおおよその意味は「しかし、批判的な能力を司る前頭葉は沈黙した状態にある」である。

5[説明] 「本文によれば、夢を極めて細部に至るまで記憶していられる場合には、どんな不都合が生じるか？本文中の表現を用いて、日本語で簡潔に説明せよ」

第11段落から第13段落にかけての内容が「夢をはっきり覚えている場合の問題点」を説明した部分である。特に、第12段落のフランチェスカ・シクラリーの発言内容を根拠として記述するのがよいだろう。その1文のおおよその意味は「覚醒時に可能であるのと同じように細部まで記憶していると、夢の内容を現実の生活で起こっていることと混同するようになると思います」である。続く第13段落第1文では、ナルコレプシーの患者において、実際にそのような障害が確認できることが述べられているので、その記述も参考にしてもよい。その1文のおおよその意味は「ナルコレプシーなどの睡眠障害を持つ人には、覚醒時と睡眠時の区別をつけることが難しく思われ、このために戸惑いや恥ずかしさを感じることになりかねない」である。以上から、「夢の内容と現実が起こっていることの区別がつかなくなること」といったようにまとめるとよい。

6[説明] 「下線部(1)の単語で意図された内容は何か。本文中の表現を用い、without という単語も組み合わせ、英語で答えよ」

下線部(1)‘float’の意味を英語で説明する問題。直前の第21段落第1文に含まれる“lie still—don’t even open your eyes”という記述部分をもとに構成すればよい。設問は“What is meant with ~”となっているので、“lying still without opening your eyes”といった名詞の形で答えるのがよいだろう。

講評

- I [長文] (標準) 「コロナ禍におけるインフルエンザ感染者数の減少」に関する英文。出題形式はほぼ例年通りで、文章内容は標準的だが、一部難度の高い設問も含まれる。
- II [長文] (標準) 「在宅ワークによる QOL の向上」に関する英文。文章内容は標準的だが、語彙や語法の知識、文構造の適切な分析が要求され、一部判断しにくいものも含まれる。
- III [長文] (標準) 「夢の内容についての記憶」に関する英文。問題文の語数は最も多いが、内容は平易である。新形式の設問も含まれるものの、大問3つの中では最も得点しやすい。

大問構成、分量は前期とほぼ変わらず。設問数が増加しており、記述問題はある程度自分でまとめる作業が必要である。内容一致問題を確実に得点できるかどうかで合否を分ける。目標は65%

本解答速報の内容に関するお問合せは

医学部進学予備校

メビオ

☎0120-146-156 受付 9:00~21:00(土日祝可)
大阪府中央区石町 2-3-12 ベルヴォア天満橋
<https://www.mebio.co.jp/>



医学部専門予備校

☎03-3370-0410
<https://yms.ne.jp/>

医学部専門予備校

英進館メビオ 福岡校

☎0120-192-215
<https://www.mebio-eishinkan.com/>



友だち追加で全科目を閲覧!
LINE 公式アカウント

◀メビオの友だち登録はこちらから

苦手も得意も今から伸ばす!

春期講習

早めに学習の基礎を固めて、今後の成績を底上げしておきましょう!

第1期 3/20 (日・祝) 開講
第2期 3/27 (日) 開講

2泊3日無料体験

寮の宿泊・食堂利用・メビオの2泊3日分無料体験をご用意しました!

オンラインクラスも同時開講!

医学部受験相談会 /2022/

〈好評開催中〉

大阪/京都/和歌山/名古屋/広島

医学部を目指すみなさまへ

長年にわたって医学部受験を指導している現役講師が壇上に立ち、医学部入試についての詳細な分析をお伝えします。入試にまつわる悩みや学習のご相談にもお答えします。

各会場では無料体験授業も実施(参加自由)

春期講習のお申し込み、説明会日程の確認、ご予約はお電話、HP、QRコードから承ります



医学部進学予備校

メビオ



0120-146-156

【受付時間】
9:00~21:00

大阪府大阪市中央区石町 2-3-12 ベルヴォア天満橋
天満橋駅(京阪/大阪メトロ谷町線)より徒歩3分

2022年度より特待制度を新設します
条件によって学費を50~90%減免。
詳しくはお問い合わせください。